

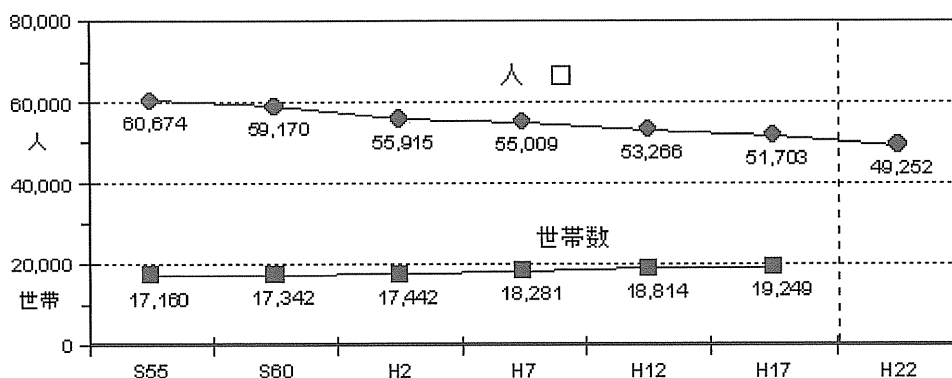
1. 能代市の現状と推移

(1) 総人口と昼間人口

①総人口の推移

能代市の総人口は昭和55年の60,674人から平成17年には51,703人まで減少している。世帯数は逆に増加している。

●総人口の推移



(国勢調査：各年10月1日)

(平成22年の人口は、国立社会保障・人口問題研究所 人口構造研究部が行った「日本の市町村別将来推計(平成15年2月推計)」の数値。世帯数についての推計はなされていない)

※ここでいう能代市は旧能代市のことをさしている。この資料全体の能代市も同様としている。

②昼間人口の推移

昼間人口の推移を国勢調査からみると、市内への就業者の流入、流出とも増加してきており、能代市内に市外から働きに来ている人は5千人を超えている。平成12年の総人口の53,266人に対して、昼間人口は57,626人で、昼間は4千人以上の増となっている。流入元の内訳では、山本郡の町村が80%でその他が20%である。

●昼間人口の推移

		昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年
昼間人口		65,540	63,639	60,544	59,755	57,626
流出入状況	夜間人口・常住人口	60,674	59,170	55,915	55,009	53,266
	流入人口	6,559	6,208	6,615	7,072	7,030
	就業者	4,405	4,221	4,675	5,364	5,410
	通学者	2,154	1,987	1,940	1,708	1,620
	流出人口	1,693	1,739	1,986	2,326	2,670
	就業者	1,477	1,527	1,770	2,115	2,493
	通学者	216	212	216	211	177
	増減(流入-流出)	4,866	4,469	4,629	4,746	4,360
	就業者	2,928	2,694	2,905	3,249	2,917
	通学者	1,938	1,775	1,724	1,497	1,443
常住人口に対する 昼間人口の割合 (%)	108.0	107.6	108.3	108.6	108.2	

(国勢調査：各年10月1日)

(2) 商業

①消費者の購買動向の現状

能代市における地元購買率は、秋田県商工会連合会の消費購買動向調査によると、買回品については、平成13年の91.7%から平成16年には82.6%となっており、9.1ポイント低下している。これは能代市が独自の商圈を持つものの、秋田市の商圈の影響下に入りつつあると推測される。また、大館市への流出も増えている。

最寄品についても、1.6ポイント低下しており、消費者の流出が発生している。こうしたことは、秋田市等における大規模店舗の出店や高速道路等の交通体系の充実、通販やネット購入など多様な買い物傾向が要因になっていると考えられる。

◎能代市における購買動向状況（人口は各年の6月1日）

●買回品の購買動向

[単位；%：人]

	能代市の 地元購買率	地元購買人口	市外からの 流入人口	合計購買人口
平成13年	91.7 %	48,684 人	39,442 人	88,126 人
平成16年	82.6 %	42,997 人	37,352 人	80,349 人
比較	△9.1 %	△5,687 人	△2,090 人	△7,777 人

(秋田県商工会連合会：消費購買動向調査)

[買回品とは消費者が比較検討したうえで購入する商品。婦人服・靴・家電・装飾品・玩具など]

●最寄品の購買動向

[単位；%：人]

	能代市の 地元購買率	地元購買人口	市外からの 流入人口	合計購買人口
平成13年	97.3 %	51,658 人	29,956 人	81,614 人
平成16年	95.7 %	49,816 人	29,684 人	79,500 人
比較	△1.6 %	△1,842 人	△272 人	△2,114 人

(秋田県商工会連合会：消費購買動向調査)

[最寄品とは消費者が頻繁に購入するような商品。食料品・日用雑貨など]

○買回品と最寄品の販売額内訳

買回品：24.13% 最寄品：61.03% 自動車購入費（買回品）：14.84%

※これを能代市の年間販売額（平成16年度：660億円）に当てはめてみた場合、

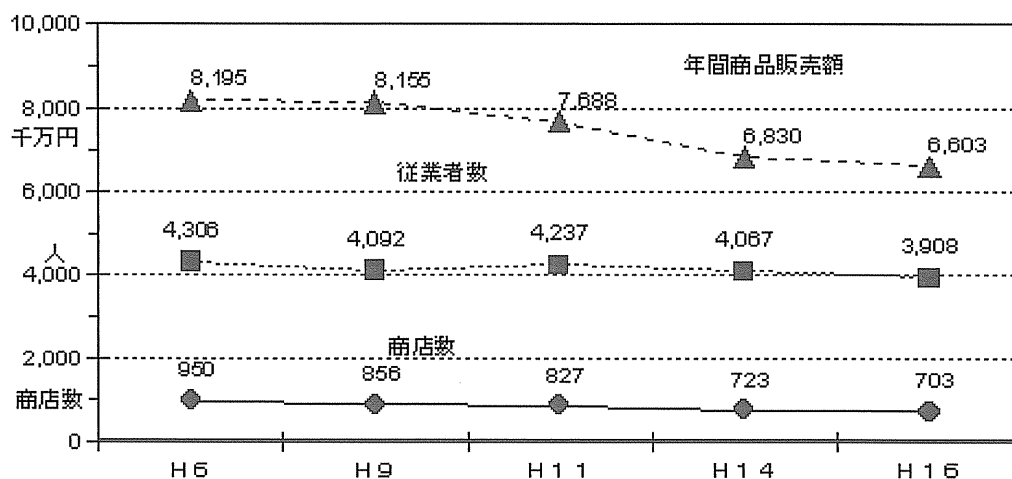
買回品は約159億円、最寄品は約403億円、自動車購入費（買回品）は約98億円と推計。

（購買割合は「平成17年家計調査」の結果をもとに東北地方の購買割合から算出。なお、自動車購入費については「平成16年商業統計」の能代市分の自動車販売額を適用）

②小売業の商店数・従業者数・年間商品販売額の推移

小売業の商店数は減少している。従業者数は4千人台でほぼ横這いで推移してきたが、平成16年には、3,908人と4千人を割り込んでいる。年間商品販売額は平成6年の819億円をピークに減少を続け、平成16年には660億円となっており、約20%減少している。

●小売業の商店数・従業者数・年間商品販売額の推移



(商業統計調査)

③現状のまま推移すると

◎買回品の商圈

能代市の地元購買率は平成13年と平成16年を比べると、低下している。流出先としては、秋田市へ13.2%、大館市へ0.6%となっている。流出の割合は平成13年からみると秋田市では7.6ポイント、大館市では0.3ポイント増えている。

流入では、山本郡、南秋田郡からの流入人口が減少している。

また、隣接する北秋田市に3カ所の大規模なショッピングセンターの出店が予定されていることから、買回品で北秋田市への流出の増加が予測される。

このまま推移すると仮定すると、秋田市等への買い物客の流出が増加し、また、能代市に流入する買い物客が減少し、買回品の商圈が縮小すると予測される。

◎最寄品の商圈

最寄品については、山本郡からは琴丘町を除いて、買い物客の流入は増加している。

一方、琴丘町、大潟村、若美町などからの流入が減少している。これは、南秋田郡に出店している大型量販店などの影響があると考えられる。

また、隣接する北秋田市に3カ所の大規模なショッピングセンターの出店が予定されていることから、最寄品についても北秋田市への流出の増加が予測される。

このまま推移すると仮定すると、能代市からの最寄品の買い物客の流出が増加し、また、能代市に流入する買い物客が減少し、最寄品の商圈が縮小すると予測される。